

強い冬型の気圧配置に伴う農林水産業用施設及び農作物等の管理対策

令和2年12月11日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が12月11日11時11分に発表した「強い冬型の気圧配置に関する新潟県気象情報 第1号」によると、県内では、14日から17日頃にかけて強い冬型の気圧配置となるため、雪を伴って風が強くなり、荒れた天気となるおそれがあります。また、15日から16日頃にかけて山沿いでは大雪となり、平地でも積雪となるおそれがあります。

については、農林業用施設及び農作物等の管理に十分注意するとともに、荒天時は屋内に待機するなど、転倒等の事故防止に十分留意してください。

なお、冬季の間は、冬型の気圧配置が急速に強まり、低温や降雪の被害を受けやすいことから、今後も気象情報に留意するとともに、以下を参考に栽培管理等にあたってください。

1 農林水産業用施設の被害対策

(1) 農林水産業用施設については、暴風や降雪による倒壊等が生じないように点検を十分に行う。

(2) かん水施設等が凍結しないよう、断熱材で覆うなど凍結防止対策を施す。

(3) 被害が発生した場合は、十分な安全を確保した上で、速やかに修繕する。

※ なだれ等による施設被害の恐れがある場合や、被害が発生した場合には、速やかに市町村または県機関に連絡してください。

2 除雪作業時の事故防止

(1) 作業は必ず複数の人員で行い、場所・時間等も周囲に連絡しておく。また、作業中は、施設等からの落雪に十分注意するとともに、危険な施設等には安易に近づかない。

(2) 作業の前後には、除雪機の点検・整備を行い、事故防止に努める。また、除雪作業時にロータリーが停止した場合は、必ずエンジンを止めてから点検・修理する。

3 園芸全般

【事前対策】

(1) ハウスのビニールは、強風に備えて破損部分の補修やマイカー線でたるみを直すなど、点検や補強を行う。

(2) ハウス等の施設とその周囲の点検を行うとともに、施設周囲の除雪に努める。

(3) 必要により、施設内に支柱を設ける等の補強を行う。

(4) 加温設備のある施設では、可能な範囲で設定温度を高め、内部カーテンを開放するなどにより、屋根部分の融雪及び雪の滑落を促進する。また、排気管（煙突）等の保

守に努め、施設内部への燃焼ガス漏れに注意する。

- (5) 無加温施設の場合は、雪の堆積量が多くなならないようこまめに見回り、除雪に努める。

【事後対策】

- (1) 施設、支柱・支線、誘引結束等を再点検し、破損箇所は速やかに補修する。特に、作物を栽培中の施設で、被覆資材の被害を受けたところは、補修までの間の低温障害を防止するため、トンネル等で作物を被覆し、保温に努める。
- (2) 加温が必要なハウスで停電した場合は、ハウス内の温度低下を防ぐため、石油ストーブ等で保温するとともに、可能な限り採光し、施設内環境の改善に努める。
停電回復後は、各種設備が確実に作動しているか確認する。
- (3) 除覆した骨組だけのハウスも、ハウスの肩のパイプ以上に積雪した場合は、損傷する恐れがあるので除雪する。
- (4) 施設の破損等により、葉ズレ、枝ズレ、蕾のスレ等で障害が発生した場合は、収穫物の選果・選別に注意する。また、倒伏した作物で回復が見込まれるものは、速やかに立て起こす。
- (5) 被災して障害程度の激しい株は、病害発生源となりやすいので、早めに処分する。
- (6) 施設の被災や停電があった場合は、速やかに暖房機の点検及び、電照・補光関連装備（電球、タイマー等）の作動確認を行う。

4 野 菜

「3 園芸全般」を参照。

5 果 樹

【事前対策】

- (1) 冠雪や暴風による倒木や枝折れを防ぐため、整枝せん定を早め実施するとともに、補強用の支柱を入れ、枝をロープなどでしっかり結束・固定しておく。
- (2) 湿った雪による冠雪が多いと予想される場合は、枝や果樹棚等に付着した雪の払い落としを随時行う。
- (3) ぶどう、なしの棚栽培で、大雪により除雪が不可能で棚の崩壊が懸念される場合は、非常手段として周囲線を掘り出し、周囲柱の下の積雪を踏み込み、主線や小張線を外す。

【事後対策】

- (1) 枝が折損した場合は、切り直して保護剤を塗布する。
- (2) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。

6 花 き

「3 園芸全般」を参照。

7 畜産

【事前対策】

- (1) ハウス等の簡易畜舎は、周囲の除雪に努め、支柱を設ける等の補強を行う。
- (2) すき間風を防ぐため畜舎の点検を行い、子畜等の保温と適切な換気に努める。
- (3) 停電に備え、自家発電機の準備・始動点検を行う。
- (4) 飲料水の凍結防止対策を行う。

【事後対策】

- (1) 停電があった場合は、速やかに関連機器の作動点検を行う。
- (2) 敷地周囲や畜舎外部の野生動物侵入防止設備を確認し、破損があれば速やかに補修を行う。

8 きのこと

【事前対策】

- (1) ハウス栽培で気温の低下が予想される場合は、生育障害を防ぐため、適切な温度・湿度管理に努める。
- (2) ハウスへの着雪・着氷が予想される場合は、排気管（煙突）や通気口等の保守に努め、排気口施設内部への燃焼ガス漏れや通気口の塞がりによる二酸化炭素上昇に注意する。
- (3) 滑落した雪による施設への側圧を軽減するため、散水ホース等を使用し消雪を促進する。
- (4) 使用していない水道管は水を抜くなどし、凍結防止対策を行う。

【事後対策】

- (1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きこの生育環境を確保する。
- (2) 降雪量が多い場合は、雪による施設への側圧及び沈降圧が作用しないよう可能な限りハウス周囲の除雪に努める。
- (3) 水道管の凍結による漏水がないか、確認をすること。

9 漁業全般

【事前対策】

- (1) 早めに気象情報等を確認し、荒天が予想される場合は、出港の中止、以降の航海計画・出港予定の見直し等を行う。
- (2) 波や風の急変に注意するとともに、早めの帰港を心掛ける。
- (3) 荒天となる前に、漁船の破損や流出を防ぐため、係留ロープで確実に固定する。また、必要に応じて漁船の上架や船外機等の重量物の取り外す、シートで覆う等の対策を行う。
- (4) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

【事後対策】

- (1) 係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、安全を十分確保してから実施する。
- (2) 漁船の転覆を防止するため、こまめな除雪を行う。除雪の際は、船のバランスが崩れて転覆しないよう、全体を均一に除雪し、バランスを保ちながら実施する。なお、船上は大変滑りやすいため、転落等に注意する。
- (3) 降雨により堆積した雪の荷重が増し、養殖施設等の倒壊等が懸念されるため、必要に応じて除雪を行う。なお、除雪の際は安全に十分配慮する。